



新しい朝

府中市立府中第十中学校

学校だより No.4

平成 30 年 7 月 6 日

ひとがら

校長 竹内 康裕

世の中には「すごい人」がたくさんいます。それぞれの分野で活躍した人、事業で成功した人、専門的な力の高い人など様々です。メディアの進化によってたくさんの成功が広く知られるようになりました。

私のような若輩者がこのようなことを書くのはとても身の程知らずですが、私は次のように思います。その人が偉いのかどうかの基準はその人の人柄にあります。いくら頭が良くても、どんなに事業を成功させてたくさんのお金を手にしても、また出世をして高い役職についても、人柄が悪ければ「偉い」とは言えません。たとえ大会社の社長であっても人柄が悪ければ、人柄の素晴らしい無名の人たちの足元にも及びません。人柄が良く、一生懸命に生きようとしている人には自然と頭が下がります。

今の日本には大きな経済力や高い科学技術があります。しかし、それだけで素晴らしい国や地域にはなりません。日本に住む各分野各方面の全ての人たちが素晴らしい人柄をもち、素晴らしい考え方で一生懸命に生きようとしていれば、世界のどの国や民族からもより大きな尊敬と信頼を得られます。日本の魅力をあれこれと工夫しながら世界に宣伝をしなくても「日本にいる人たちは素晴らしい。素晴らしい人間性をもっている。あの国の人たちこそ大事にすべきだ」と思ってくれるに違いありません。

変化の激しい社会、少子高齢化、人口の減少、経済力の低下と、今後様々な課題が私たちを待ち受けています。しかし、一番大切なことは、素晴らしい人柄・人間性をもった人たちが住んでいる国、平和で安心して暮らせる国だと世界中から尊敬を受け、信頼されるような国になることだと思います。それができるのは私たち一人ひとりです。

では、良い人柄とはどういうことでしょうか。もちろん様々な考え方がありますが、私は、「利他」に根差した思考と行動力、自己を高めようとする純粋な気持ちであると思います。他の人の役に立つような努力をする。世の中のためになる努力をする。自分はそのために学び、力をつける。例えば、食品関係の仕事ならば、美味しく、体に良く、手ごろな価格で、環境にも優しいものをたくさんの人たちに、という思いで開発や製造そして販売等に関わります。「他の人のため、世の中のため」＝「利他」。当然、事業を続け、そこで働く人が暮らせるだけの利益は必要で、それは私利私欲とは思いません。「自分だけの利益のためではなく、たくさんの人たちの幸せのために」という考えが基になった行いは、最も尊いものだと思います。

このように考え、毎日をひたすら頑張りを続けていくことで、自然と自身の人柄は磨かれていくのだと思います。例え困難な場面に出会っても、そもそもの考え方が「他の人のため」であるなら、最後まで頑張りとおせまし、周囲も「それならば」と気持ちや力を寄せてくれます。事がうまく進んでも決して驕らず謙虚に「利他」「高邁な人生」を目指したいものです。

私たちの社会には、このような素晴らしい人柄をもったたくさんの人達が、今日も地道に努力を続けています。若いうちはもちろん、何歳になっても先達・先人に習いながら自らを高めていきたいものです。

■□ お知らせ ■□

副校長の異動について 7月1日付

本校の関 勝志 前副校長は 小平市立小平第四中学校の校長に昇任し、異動となりました。
後任には 山田 任代（やまだ ひでよ）副校長が八王子市立打越中学校より着任しました。

《離任の挨拶》

前副校長 関 勝 志

突然ですが、府中十中を去ることになりました。たった一年間でしたが、自分にとって充実した大切な一年でした。ただ、女子バスケット部の皆さんには中途半端なお別れとなってしまい申し訳なく思っています。出会いがあれば別れがあります。始まりがあれば終わりがあるのと同じです。別れや終わりはいつ訪れるかわかりません。だから、今を、一瞬一瞬を、一生懸命生きることが大切なのだと思います。

私の座右の銘は「為せば成る、為さねば成らぬ何事も。成らぬは人の為さぬなりけり。」という言葉です。また、私は負けず嫌いの性格から、若い頃はどんなことにも勝負をしていました。しかし、運動能力も学力もそれほど高いわけではなく、勝てないことの方が多かったです。「自分はダメだ」と思ったり、他人を羨んだり、自己肯定感が低い時期もありました。

私は高校3年生の体育祭でなぜか応援団長をやることになってしまいました。自分から望んだわけではありませんでした。大学受験そっちのけで一生懸命やりました。その時、「自分のためにではなく、仲間や他人のために頑張る方がエネルギーが湧いてくる。」と感じました。それをきっかけに「勝負する相手は他人ではなく、自分自身だ。」と思うようになりました。自分自身に勝つということは「どんなに辛くても諦めないで最後までベストを尽くす。」ということです。諦めなければ勝ちです。「能力に限界があっても、努力に限界はない。」これが今も自分の生き方の道標となっています。だから、努力でできることは全力でやる。その一つが「挨拶」です。

皆さんに私の生き方を押しつける気は毛頭ありません。ただ、いつか自分の生き方を方向付ける出来事や出会いがあるのだと思います。それを大切にしてください。

この府中十中で、皆さんの「明るい挨拶」と「心のこもった合唱」に出会えてよかった。また、素晴らしい先生方、保護者や地域の方々と出会えて幸せでした。

ありがとうございました。皆さんの活躍を期待しています。

《着任の挨拶》

副校長 山田 任 代

このたび、八王子市立打越中学校から副校長として着任いたしました山田任代（やまだひでよ）と申します。

府中第十中学校は「明るい挨拶、きれいな学校」を合い言葉に、生徒と教員が笑顔で明るく気持ちの良い挨拶を交わし信頼関係を作り上げている学校と聞きました。私が初めて府中十中の生徒や校舎を見たときに感じた第一印象がまさに「礼儀正しく、挨拶のできる生徒達だな。」でした。

私も『笑顔で明るいあいさつ』は常に心がけていることの一つです。あいさつは、相手のことを認め大切にしているという心づかいの表れ、相手への優しさや思いを表す行為です。笑顔からは笑顔が生まれます。そして、あいさつをする事で自分自身も心が開き、優しく豊かになっていきます。あいさつは人間力を高める基本だと思います。

一日も早く学校に慣れ、生徒や教職員、保護者や地域の皆様から信頼されるよう優れた実践を学び、チャレンジすることを忘れず日々精進してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

■□ ロータリー作文コンクール表彰 ■□

東京府中ロータリークラブ「第44回作文コンクール」表彰式（6月30日）において市内の全小中学校より13000点以上の応募のなか、本校から8名が入賞しました。

課題「大切にしていること」～人との関わりを通して～

| | | | | |
|----|----|----|----|----|
| 金賞 | 3年 | 杉田 | 京 | さん |
| 銀賞 | 3年 | 大池 | 花菜 | さん |
| | 3年 | 橋場 | 彩香 | さん |
| | 1年 | 畑山 | 誠 | さん |
| 銅賞 | 2年 | 上田 | 陽菜 | さん |
| | 1年 | 高橋 | 伶太 | さん |
| | 1年 | 塚田 | 怜圭 | さん |
| | 1年 | 伊藤 | 彩海 | さん |



金賞はロータリークラブ賞（中学生は1名のみ）に次ぐ賞で、中学生からは2名しか選ばれません。今年、杉田さんが見事にその榮譽に輝きました。

■□ 地域貢献プロジェクト委員会 ■□

月曜日と水曜日と金曜日の朝7時30分より地域貢献プロジェクト委員会の生徒が交代で野菜を収穫し、無人販売店で販売しています。場所は西府テニスコート北側の畑です。近隣の農家のご厚意で畑をお借りし、ご協力の下、その朝の“とれたて野菜”を販売しています。作業しているメンバーに地域の方々が暖かい声をかけてくださいます。



ご声援をいただき、ありがとうございます。今後ともよろしくお願いたします。なお、売り上げは、地域の福祉施設等への寄贈品を購入する予算としています。今年も生徒たちが楽しみながら考える予定です。

毎回、野菜は早めに完売します。売り切れの際はご容赦ください。



■□ 法務省主唱 社会を明るくする運動 ■□

7月は社会を明るくする運動強調月間です。地域の力で明るい社会を目指し、犯罪や非行を防止しようというものです。7月2日(月)、市内全ての中学校から、学校を代表する生徒たちが市内けやき通り、フォーリスの前に集まって街頭啓発活動を行いました。高野府中市長や松本青少対委員長も一緒に参加されました。梅雨明けの暑い中、本校の精鋭4人も道行く街の人たちに啓発チラシとポケットティッシュを言葉と笑顔を添えて配ってくれました。



■□ 生徒会主催 地域清掃活動 ■□



7月4日(水)、生徒会主催の地域清掃活動がおこなわれました。250名を超える生徒が参加してくれました。本校の生徒数は303名ですので、実に8割以上の有志の力が集まりました。短時間にたくさんのごみが集まりました。きれいな環境は気持ちのよいものです。そこに暮らしている人の心が映し出されます。私たちが

暮らす府中を愛し大切にします。共に暮らす人たちと助け合ってより良い地域にしましょう。暑い中、保護者の皆様から冷たい麦茶などの差し入れを美味しくいただきました。



■□ あなたの姿勢は大丈夫ですか？ ■□

授業中、ちょっと気になること。・・・全体的には集中して一生懸命に取り組んでいるようですが、ちょっと待って！ノートにあまりにも目が近い！寝ているのか？と思いきや、左の頬を机に置いたノートにつけて書いている人がいました。極端な例ですが、確かにその人は「寝てはいない」し「ノートはとっている」のです。声をかけるとすぐに身体を起こしましたが、癖になっていないか心配です。視力低下も心配ですし、同時に、学んだことや大切なことがしっかりと定着しているのかも気になるところです。

小学校やそれ以前の幼い頃に、勉強をするときや本を読むとき、また、文字を書くときの正しい姿勢を教わったはずですが、正しい姿勢には寝や身だしなみというマナーの要素もありますが、集中力や脳への刺激による学習効果など、学力向上のための大切な手段の一つです。背筋を伸ばすと教室の後ろにいる人にとって前が見えづらくなるのではという心配はご無用。みんなが伸ばせばいいだけのことです。今すぐできる確認や改善は今すぐに。積み重ねが大切です。

学習スタンダード(基礎編)

- ◎ 話す人(先生や発表する人)の目を見る。
- ◎ 椅子にしっかり座り、机とお腹の間はこぶし一つ程度にする。
- ◎ 文字を書くときは背筋をまっすぐに。

これだけやっていれば大丈夫というわけではありませんが、せつかく時間をかけて学ぶのだから、その努力がすぐに実を結ぶ方が良く決まっています。目と背筋。毎日、丁寧に学び続ける心の姿勢でもあります。

